

| 県外派遣報告書 | |
|---------|---|
| 1 大会名 | 令和4年度 国民体育大会 第42回九州ブロック大会 |
| 2 派遣期間 | 令和4年8月26日(金)～28日(日) |
| 3 派遣者 | 上山 正智 前田 隼大 山中 萌衣 中島 弘幸 川井 剛 三木 大助 |
| 4 担当ゲーム | 上山：予選リーグ少年男子 U1／決勝リーグ成年男子 U2 前田：予選リーグ成年男子 CC／決勝リーグ少年男子 CC 山中：予選リーグ成年女子 CC／2位パート少年女子 CC 中島：予選リーグ成年男子 U1／決勝リーグ少年男子 U1 川井：予選リーグ少年男子 CC／決勝リーグ成年男子 U2 三木：予選リーグ少年女子 U1／CC／成年女子決勝リーグ U2 |
| 5 内容 | <p>〈上山氏 報告〉</p> <p><u>予選リーグ少年男子 福岡県 対 宮崎県</u> <u>CC：福岡（長崎県） U1：上山 U2：佐久間（沖縄県）</u></p> <p>【PGC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022重点ポイントの確認（ポジションアジャスト、怪我を伴うコンタクトへの対応、EOQ/EOGの重要性） ・映像確認 <p>【After the Game】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プライマリにおける判定をクルーにコールして頂いた。判断力の弱さ、準備の足りなさを感じた。 ・トラベリングの整理をもう少しすべきであった。 ・patient に関しては少しずつ意識できているように思える。 ・今後の課題としてゲームフローの把握・意識を高めていかないといけないと思う。 <p><u>決勝リーグ成年男子 鹿児島県 対 熊本県</u> <u>CC：古後（福岡県） U1：井元（熊本県） U2：上山 IR：宮武氏</u></p> <p>【PGC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022重点ポイントの確認（ポジションアジャスト、怪我を伴うコンタクトへの対応、EOQ/EOGの重要性）→特にポジションについて ・キーマンの把握（インサイド 2M over の選手同士のマッチアップ） ・ベンチコントロール <p>【After the Game】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンポセットとしてそれぞれのプライマリが責任を持ってコール ・キーマンをもう少し抑えて、クルー間で情報共有をしておくべきだった。アクションではなくリアクションをコールした場面もあった（インテンシティブコントロール） ・ベンチコントロールに関しては、大まかには出来たと思う <p>【IRより】</p> |

・ゲーム全体の流れ（フロー）を頭に入れて運営していくことが必要になってくる

・プライマリテイクの意識

・笛の吹き方には工夫の余地はある

・メカニクスに関しては、しっかりと勉強していると伝わった

〈前田氏 報告〉

予選リーグ 成年男子 宮崎 vs 福岡

PGCでは研修テーマであるポジションアジャスト、プレーコーリング（怪我等）、EOQ・EOGに関して確認、基本的なメカニクスとサイズ差がある中でのメカニクスの対応を共有。

ゲームは福岡が終始リード、宮崎も若手主体のチームで最後までハードワークしており、我々としても集中して運営できた。前半ローテーションが重くなり、後半は積極的に行くことでアジャストできた部分と必要なかった部分とがあった。ポストゲームでは、大きなトラブルがないゲームだからこそ、当たり前のことを当たり前に（挨拶、インナー系、判定）行う。スムーズなゲーム運営（スピードアジャスターが肝）。UFがよぎった際のCCMの発揮等ご指導頂いた。特にスムーズな運営とCCMに関しては再認識でき、次回実行するために何が必要か考えた。

決勝リーグ 少年男子 沖縄 vs 福岡

PGCで昨日同様の共有に加え、選手のランプレー、ドライブキックアウトに先に準備しておくことを確認。Lに入るスピードやCtoCは最後までトライできた。1Q EOQでクルーワークを発揮したい場面だった。Cサイド、EOQはCが担当とビジューなケースでT・Lともにクロックとショットの確認を中途半端にしてしまい確証を持てなかった。今回はCがしっかりと判定できたものの、参加することをもっと強く持つことが必要であった。この経験を活かし、2Q EOQは全員意見を持って判定することができた。個人としては前日のポジションアジャストの修正、特にTポジションを意識し改善する事ができた。

〈山中氏 報告〉

成年女子 福岡県 対 熊本県

CC：山中、U1：松田（沖縄県）、U2：岡井（佐賀県）

【PGCの内容】

・重点ポイント（ポジションアジャスト、ファウル的事实、怪我を伴うコンタクトへの対応、EOQ/EOG）の確認

・ベーシックなメカの確認（ローテーション、エッジの分担、ミッドレイン・カバレッジの確認）

・TOとの連携について

【ゲームの内容】

・前半、熊本県のシュートがよく入り、点差が開いてしまった。後半は、福岡が留学生を長く出し続けたこともあり、点差を縮める展開となった。

・前半、後半で留学生の出場時間が大きく違い、試合の内容も変わってきた。前半ではなかったインサイドへの身体によせやシリンダーの部分について、クルーみんながもっと早く感じ、そこをもっとクリーンにするべきだった。特に、FOMを妨げるような守り方は声かけをするなどして、対応したかった。

・3or2に関して、自信がもてなかったものや割れてしまったものがあったので、オープンアングルで確認できる位置に先にアジャストすべきところがあった。

・前半、Lでのローテーションが重い部分があった。後半に少し修正することができたが、前半のうちに修正し、もっと積極的にローテーションをした方がよかった。

【ポストゲームカンファレンス】IR：村上氏（講師）

・クロック管理をクルーで協力してできていた。

・同じ選手にファウルが続いたとき、誰がどのようなファウルを吹いたのか覚えておく。

・より大きく見せるためのプレゼンをもっと工夫できたら良い（コールした後ですぐ動いてしまっているの、「止まる」瞬間を作るなど）。

・判定の根拠をより明確に、具体的にもつことを意識する。

少年女子2位パート 熊本県 対 長崎県

CC：山中、U1：甲木（福岡県）、U2：仲間（沖縄県）

【ゲームの内容】

・本国体出場への最後の1枠をかけ、激しく1点を争うゲームだった。

・1Qは両チームファウルが増えたが、2Q以降はゾーンだったこともあるが、ファウルも減り、展開の早いゲームとなった。その中で、吹いたもので我慢した方がよかったもの、自分のプライマリで自分が吹いた方が良かったものがあった。特に、Cプライマリでのドライブは最後のフィニッシュまで責任持って判定すべきであった。

・クロック管理も、クルーで協力し、正しい時間で進めることができた。

・TFを吹いたケース（TO後、再開時にボールをスローインする選手に渡した後、6人目となる選手がコートに入ってきてしまった）では、近くにいたクルーが対応してくれて、その後もスムーズに進めることができた。

【ポストゲームカンファレンス】IR：隈元氏

・2Q以降、ゲームが落ち着いてきた時に、プレーを長く見て明らかなものをコールしていく。

・TF のケースは、ブザーも鳴っていたので、次のデッドになった時に交代をさせる処置でも良かったのではないかと。しかし、ベンチも納得してくれたので、このゲームではこの処置が適していた。

〈中島氏 報告〉

成年男子予選リーグ 宮崎 v s 沖縄

CC：岩尾圭治(熊本) U1：中島 U2：西崎拓哉(福岡)

【ポストゲームカンファレンス：IR 宮武庸介氏】

・2Q でのプレーコーリング（ドライブに対する守り方、イリーガルスクリーン、ボールを受ける際に手で押しのけオフェンスファウルなど）により、ゲームが落ち着いた。A 級としての経験年数を重ねているからこそできるゲームコントロールであったので、1Q にテンポセットすることを求めたい。

・クルーとしてお互いの判定を共有して、選手やコーチに公平性と一貫性を示せることが大切である。

少年男子1位リーグ 熊本 v s 沖縄

CC：伊藤彰二(福岡) U1：中島 U2：西崎拓哉(福岡)

・オフェンスとディフェンスの勝ち負けや、ポジションからファウルが起こりそうか予測して、判定につなげることは大切だが、選手のレベルが上がれば、そこからリーガルになる可能性も高くなるため、最後まで見極めて判定する。

・EOQ や EOG の時間の管理。特に 5 秒切った場面でコントロールが変わり、センターオフィシャルが時間を担当するが、そのタイミングでセンターがいわゆるビジーであった際に、ラストショットが早いか時間の終了が早いかの判断が難しくなる。それも想定してセンターは準備をしなければならないことに加え、リードやトレイルもサポートできるように準備する。

〈川井氏 報告〉

少年男子 宮崎一大分

CC 川井 U1 秀島（佐賀） U2 水間

PGC では初戦を観戦していた宮崎を中心にスカウティング。それぞれのプライマリーでの見方や、シンプルな PC を心がけることを確認。ゲームは、前半はそれぞれのプライマリーを強く判定することができた。3Q にゲームの様相が変わり、いろいろなケースが起こった。その際のクルーワークに課題が残った。

例) UF にアップグレードするかどうかのコミュニケーションの際、ファウルをしたプレイヤーを見失った。

→ベンチの様子等から慌ててコミュニケーションを図りに行ったので、慌てずに、一つ一つ丁寧に確認する。ファウルされたプレイヤー、ファウルしたプレイヤー、AOS、など。

例) TF をコールしたあと、役割分担はある程度できていたが、その後の挟み込みの FT が入った際、得点が加算されたかどうかを確認しておらず、その後に得点が合わないということで長時間ゲームを中断してしまった。

→表示物に関して、気をつけているが、まだまだ把握が足りていないのでもっと確実に把握するよう意識する。

また、講師コメントから、明らかな FT シューターバイオレーションがあった際は、オポジットトレイルからでも CCM を発揮して判定が欲しかったとあった。CCM を発揮して判定をする場面、クルーに任せるべき場面の基準が曖昧である自分の弱点が露呈した場面だった。

成年男子 福岡ー熊本

CC 松永 (長崎) U1 皆川 (福岡) U2 川井 講師 黒岡氏

PGC では、初戦を見ていた熊本を中心にスカウティング。福岡は U1 からの情報を入れながら、ポストでのマッチアップや熊本のセカンドメンバーへの対応等について確認をした。ゲームは、予想通りポストマンへの笛の入れ方が鍵となるゲームであった。

講師より・・・

クルーが何を吹いたのか、同じプレイヤーに連続でコールされていないか、コールしたプレイヤーが次にやられたケースでは絶対に逃さないというメンタルがあったかなど、『公平性』という面でのお話があった。確かに、ポストの争いに関して笛は鳴っているものの、青の選手にファウル、3 sec、OF などと続いた場面もあった。知っていて分かっているけどどうコントロールするのか、という部分をもっと突き詰めていきたいと感じた。

また、難しい笛が多いというコメントをいただいた。自分のプライマリーで起こる、『明らかなもの』をシンプルにコールすることを心がけること。まだよくわからないものを判定しているケースが多かったとのことなので、映像を見直して検証したい。

〈三木氏 報告〉

少年女子 佐賀 対 福岡

CC:松永雄平 (長崎) U1:三木大助 U2:林剛太 (熊本)

【PGC の内容】

- ベーシックなメカニクスの確認 ポジションアジャストの重要性
- シンプルなプレイコーリング 怪我につながるプレイへの対応
- 処置ミス 0 GC、SC のプライマリーの確認

【担当ゲームについて】

クルー間でよくアイコンタクトを取り合い確認しながらスムーズにゲームを進めることができた。途中判定が違った場面があったが、先に判定を進めてしまったので、協議してからどちらが先か結論を出すべきであった。佐賀のベンチから何回かスクリーンプレイについてのアピールがあったが、情報が薄かったため、もっとプレイを長く捉えておく必要があった。クロックの訂正をクルーの中で余裕のある人が気付いて訂正できたので良かった。

【ゲーム後の振り返り】

ゲーム後はクルーミーティングで振り返りを行ったが、主にはゲーム中に感じた内容で話を進めた。

その後、個別で映像を見返し、いくつか気付いた点として、

- 判定が違った場面でのトレイルのポジションが高くなってしまっていたので、ハイポストへのポジションアジャストが必要であった。また、判定が違った時にすぐ集まって協議ができれば良かった。
- 福岡の早い展開の中でのスクリーンプレイは、ボールを追うのではなく、もっとオフボールからのプレイの展開に長くチェックインする必要があった。

上記の点を改善していき、次に繋げていきたい。

少年女子 熊本 対 宮崎

CC：三木大助 U1：荒木晋之（福岡） U2：田中洋介（福岡）

【PGCの内容】

- 処置ミス0 コールがあった時に確認しないといけない事項を確認し、3人で分担して確認をしていくこと。また、ミスが起こりやすいケースを確認し、共有することで処置ミス0を目指すこと。

【担当ゲームについて】

ゲームの立ち上がりから両チームとも激しいディフェンスに加え、オフェンスも積極的にドライブを仕掛けてくる展開であった。それに対して早目にテンポセットしようと笛を入れたが、マージナルな判定から入ってしまったため、プレイヤーや他のクルーにも明確な基準を示すことができず、判定にばらつきが出てしまった。また、宮崎ベンチは良くコミュニケーションを取ってくるコーチであったため、ショート&クリアで説明をしながら、ゲームを進めた。クルーチーフとしてクルーとしての判定の一貫性やベンチコントロールなど課題の残ったゲームとなってしまった。

【ゲーム後の振り返り】

確実な現象を一つ一つ積み上げていくことで、プレイヤーやベンチに基準を示す必要があるゲームであった。また、クルー間でもお互いの基準を共有し、一試合通じて一貫した判定が必要であった。

どうしても片方のベンチとばかり、コミュニケーションを取っている様な見た目であったため、どこかで一線が引けたらよかった。また、応援のあり方

| | |
|---------------------|--|
| | <p>についても、奇声を発したり、立ち続けていたりするベンチをもっとコントロールする必要があった。</p> <p><u>成年女子 沖縄 対 熊本</u></p> <p><u>CC：小川隆三（宮崎） U1：川島司（宮崎） U2：三木大助</u></p> <p>【PGC の内容】</p> <p>•前日の熊本の試合の中でクリップしていただいた映像を見ながら、オフボールでの手の絡みやバンプなどが起こるので、準備をしておき慌てて笛を吹かないこと。それぞれのプライマリでより長く見ていた人が本当に影響のあった時に笛を入れられる準備をしておくこと。</p> <p>【担当ゲームについて】</p> <p>プレゲームで打ち合わせたようにポジション争いや腕の絡め合いなど、オフボールで色々なことが起こるゲームであったので、まずは自分のプライマリをしっかりとチェックインしていくことを徹底して心がけた。プレイをより長く見て判定することでシンプルに判定につなげることができた。課題としては、自分のエリアにボールが来た時にそちらに注目してしまい、周辺での触れ合いに対し、目が当たるのが遅れ、判断に迷う場面があった。また、ダブルホイッスルで間が長くなってしまったので、プライマリの決断が必要であった。</p> <p>【ゲーム後の振り返り】</p> <p>自分のプライマリの判定をシンプルに積み重ねていくことができたが、それだけではなく、いつクルーがコミュニケーションを求めているか、他のクルーがどんな判定を積み重ねているか、判定した後の再開方法など何を確認しないといけないかを確認しながら、ゲームコントロールが必要なゲームであった。</p> <p>（講師 村上恵美氏より）</p> <p>自分の primary で起こるものに対し、シンプルに判定をされていたと思います。また GC の修正や怪我人の対応など CCM を発揮され、crew としても丁寧に game を進められていたと思います。</p> <p>Ref.として判定（call、no call 含め）することはとても大事ですが、その一つ一つの判定の先に起こるものへの準備や対応が求められます。ライブ中だけでなく、デッド中にもアンテナを張り続けてみてください。</p> <p>また、OOB や判定が割れそうなケースなど、周囲の関心が高まる場面でのプレゼンを改善・工夫されると、より判定が生きてくると思います。</p> |
| <p>6 所感 上山氏</p> | <p>現在、新型コロナウイルス感染症の第7波が起こっている状況の中で、準備・運営をして頂きました熊本県バスケットボール協会の皆様には大変感謝申し上げます。</p> <p>個人の全体的な反省としては、ゲームフローをもっと頭に入れてゲーム運営していく必要があると感じました。ベンチコントロール、インテンシティー</p> |

コントロール、テンポセット、TOとの連携 etc.色々ありますが、もっと改善できる部分はありました。これから様々な場に出向き、研鑽を積んでいきたいと感じました。

今回久しぶりに九州上級審判員が集まる機会となりました。この経験をぜひ県内に還元していきたいと思います。

派遣して頂きました審判長をはじめ、鹿児島県バスケットボール協会の方々には感謝を申し上げます。ありがとうございました。